



双葉台だより

第63号

令和7年9月1日発行
双葉台地区住民の会



事務所 双葉台市民センター内
TEL・FAX (029) 251-3991

令和7年度住民の会総会を開催!



条例制定と市民の責務

双葉台地区住民の会 会長 和田 正治



今年4月1日、「水戸市町内会・自治会の活動の活性化に関する条例」が施行されました。

市には、約千三百の町内会・自治会があり、34の小学校区ごとの地区会にそれぞれ所属しています。

双葉台地区住民の会も、この34地区の中の、一つの地区会です。町内会・自治会の数は29となっています。

条例の制定に至った理由の一つが、毎年1.3%ずつ低下して、現在は48%台となっている、町内会・自治会の加入率にあります。

す。因みに、双葉台地区の加入率は現在67%台で、毎年0.8%ずつ低下しています。やがては50%以下の半数割れに陥り、地域コミュニティ存続の危機となることが懸念されています。

今、水戸市では、市民が相互につながり支えあいながら、将来にわたり安全で、安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指しています。特に自然災害の発災時における助け合いや協力がスムーズに行えるかが課題となっています。

そのためには町内会の存在が必要不可欠です。市民の皆様の理解のもと、加入促進が好転するよう願ってやみません。

令和7年度 主な事業計画

●10月5日(日)

双葉台地区市民スポーツフェスタ

場所等…双葉台市民センターほか

●11月8日(土)

ふれあいフェアin双葉台

場所等…双葉台市民センター・隣接広場

●11月17日(月)

清潔なまちづくり運動

場所等…双葉台地区内への協力

●12月7日(日)

双葉台地区市民歩く会

※コースは未定

●2月14日(土)

第12回グラウンド・ゴルフ大会

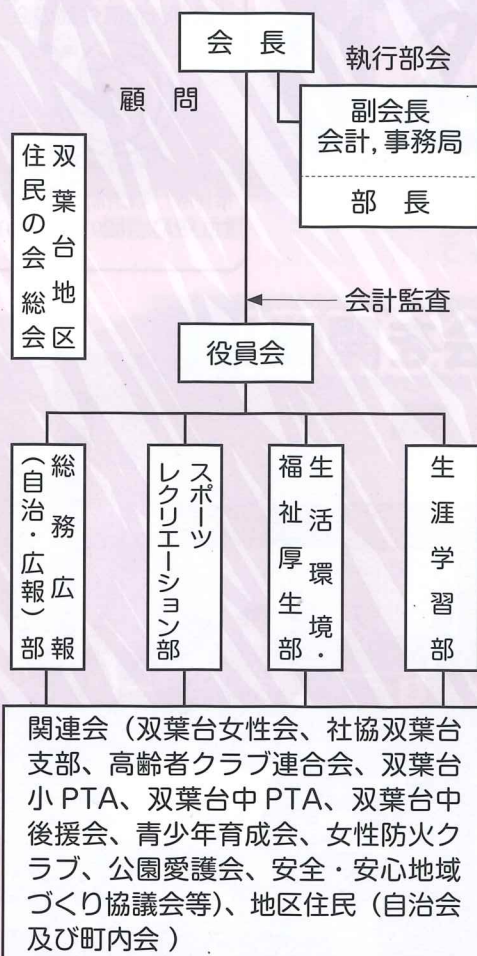
場所等…双葉台公園

●2月21日(土)

双葉台市民センター文化展への協力

場所等…双葉台市民センター

双葉台地区住民の会組織図



～令和7年5月17日 住民の会 総会・新体制でスタート～ (新任部長紹介)

スポーツ
高倉富士男
今年度のスポーツレクリエーション部長を務めさせていただくことになりました高倉です。どうぞよろしくお願いいたします。

当部会では、春季・秋季の球技大会、スポーツフェスタ、歩く会、グラウンドゴルフ大会等の事業を実施してまいります。

特に、十月開催予定のスポーツフェスタにつきましては、幅広い年代の方々が、より楽しめるような内容にしたいと考えております。

皆様のご参加とご協力をよろしくお願いいたします。



生活環境・横須賀恵子
今年度より、活動内容に重複する部分が多いということで、生活環境部と福祉厚生部を一つにまとめ活動することになりました。

地域の環境美化活動として花壇コンクールの実施や清潔なまちづくり運動、地域の子育て支援や見守り等の推進の他にも、福祉厚生に関わる活動に取り組んでいきたいと思っております。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



令和7年度住民の会会計予算

収入 (単位: 円)	
科目	予算額
会費	420,000
補助金	981,700
社協補助金	50,000
市委託事務費	1,107,000
繰越金	491,025
雑収入	275
合計	3,050,000

支出 (単位: 円)	
科目	予算額
事務費	90,000
会議費	50,000
事業費	1,370,000
市委託事務費	1,107,000
通信費	80,000
印刷費	100,000
旅費	50,000
負担金	48,500
交際費	60,000
予備費	94,500
合計	3,050,000

令和6年度住民の会会計決算報告

収入 (単位: 円)		
科目	予算額	決算額
会費	420,000	393,750
補助金	979,000	1,123,275
社協補助金	50,000	50,000
市委託事務費	1,336,600	1,261,791
繰越金	352,582	352,582
雑収入	818	33,136
合計	3,139,000	3,214,534

支出 (単位: 円)		
科目	予算額	決算額
事務費	80,000	47,335
会議費	50,000	35,903
事業費	1,330,000	1,195,409
市委託事務費	1,336,600	1,261,791
通信費	60,000	40,456
印刷費	80,000	21,560
旅費	40,000	14,680
負担金	48,500	47,875
交際費	60,000	58,500
予備費	53,900	0
合計	3,139,000	2,723,509

※差引残額 491,025円 (次年度へ繰越)

「令和7年3月8日「双葉台地区及び国田地区 合同防災訓練・研修」が双葉台市民センターで 開催された」

開催趣旨。水戸市内36地区により定めた「洪水時における地域間の連携協力について（平成29年8月）」に基づき、地震災害及び風水害について平時から合同で訓練、研修等を行い、両地区の災害時における円滑な連携を図ることを目的としている。最初



に両地区の会長から主催者挨拶、続いて来賓として水戸市防災危機管理課鬼澤英二課長、水戸市住みよいまちづくり推進協議会角田恒巳会長から挨拶があった。続いて講演に入り、まず「令和元年10月台風19号災害の国田地区被害と応急復旧



対策」について国田地区自治実践会小田倉康家会長から、次いで「令和6年1月能登半島地震被災地支援と今後の備え」について茨城県社会福祉協議会中村英二参事からそれぞれお話しがあった。休憩の後、出席者が4グループに分かれて意見交換をし、それぞれの地区の現況について認識を新たにするともに交流を深めた。※合同防災訓練・研修の様子（写真）



双葉台地区防災研修会を開催

双葉台地区防災対策本部

「双葉台地区防災研修会が開催される」

令和7年度の事業として7月26日に防災研修会が双葉台市民センターで開催された。

最初に「非常持ち出し袋を自分で作ってみよう」ということで防災士の三瓶富美子さんから非常用品の説明（写真左上）があり、日頃からの備えとして「避難所の開設までに3日程度かかることを想定し、最低3日分の食料品等の備えが必要」であることが強調された。続いて「防災倉庫の点検・整理」を参加者全員で実施（写真右下）。最後に5グループに分かれ二時避難場所看板の設置の場所の



確認」が行われ、立て替えが必要な箇所（写真左下）の確認を行った。





縦割り班活動

様々な人とのふれあいの中で
双葉台小学校
校長 木村 真理
本校では昨年度から「縦割り班活動」を行っています。全校児童が月に一度、一年生から六年生までを含む三十人ほどのグループに分かれて遊びます。

高学年の児童は、年齢差のあるメンバーが楽しめるようよく考えて計画を立て、気配りをしながら運営します。低学年の子たちは高学年のリードで楽しく遊びながら、上級生の姿に憧れの気持ちを含んでいます。同学年と過ごす中では得られない成長を感じます。

双葉台小の子どもたちは、日頃から多くの場面で、地域の方や保護者の方にも支えていただきながら学んでいます。様々な人とのふれあいの中で成長する機会を、これからも大切にしていきたいと思っています。



あいさつ運動

生徒の成長を地域とともに
双葉台中学校
校長 大内 邦明
双葉台中学校では、「次代を拓く「生きる力」をそなえた双中生であれ」を教育目標に掲げ、変化の激しい時代を自分らしく生き抜く力の育成を目指しています。

日々の学校生活では、「あたり前のことをあたり前にできる生徒」の育成を大切に、基本的な生活習慣や礼儀、責任ある行動を重んじています。

令和九年度に、双葉台小・中学校は創立五〇周年を迎え、それらにむけて準備も始まりました。

これからも地域とのつながりを大切にしながら、生徒一人ひとりが誇りをもって成長できる学校づくりを進めていきます。どうぞよろしく願っています。

町内会紹介 「むかし昔の話」

開江町町内会

代表区長 粉川 健

太閤検地以降、村制度の発足があり開江は、常陸国茨城郡開江村として誕生しました。当時4つの集落があり、神社や寺院があった「馬池坪」を中心に東に「永田坪」北に「上坪」南に「下坪」、東西南北15町の四角の形をして戸数は約70戸だったといわれています。その後、行政改革で昭和33年に水戸市に合併「開江町」となりました。

もう一つ古い話があります。江戸時代に「郷蔵地（ごうくらち）」と呼ばれ「郷倉（ごうくら）」が建てられ一時的な年貢米保管や凶作に備えるための穀物を貯えておき非常救済に用いたそうです。明治になつて制度が改まりその役目を終えた後、村民が参集する施設として集会所が建てられ「開江公民館」となり、そして現在の「開江町コミュニティセンター」となったそうです。

市民センターだより

水戸市双葉台市民センター所長 五上 正嗣



本年4月に水戸市見川市民センターから赴任いたしました五上です。

赴任して以来、双葉台地区の皆様温かいご支援とご協力のおかげを持ちまして、多くの講座や各種の事業を推進できました。このことを深く感謝いたします。

双葉台市民センターでは各種



開江町コミュニティセンター

証明発行などの窓口業務をはじめ、生涯学習活動の拠点として、市民センタークラブ活動や高齢者学級、レディースセミナー、一般の方を対象とした多くの講座を開催しています。

また、双葉台地区住民の会や水戸市社会福祉協議会双葉台支部等のボランティア組織と協働で「スポーツフェスタ」や「ふれあいフェア」「福寿の集い」等の事業を行い多くの方に参加いただいています。

今後とも地域の皆様と協力して地域「コミュニティ」形成に努めてまいります。

編集後記

猛暑といつより酷暑といつ言葉が相心しい近年の「夏」。

今年は、日傘や帽子・サンダラス・水筒などを持ち歩くようになりました。

九月もまだまだ暑いですが、引き続き熱中症にお気をつけください。

(横須賀記)